



vCenter Server 5.1.0b 説明ファイル

VMware vCenter Server 5.1.0b では、いくつかのバグが修正され、パフォーマンスが向上しています。vCenter Server 5.1.0b は、ユーザーに対してより円滑なアップグレード パスを提供し、vCenter Server 5.1 の新機能のメリットを活用できるようにすることを目的としています。

アップグレード パス

vCenter Server 5.1.0b はパッチ リリースではありません。このバージョンにアップグレード可能な vCenter Server の旧バージョンは次のとおりです。

- vCenter Server 4.1、4.1 Ux
- vCenter Server 5.0、5.0 Ux
- vCenter Server 5.1 GA、5.1.0a

vCenter Server 5.1.0b がサポートするデータベースおよび OS 構成は、vCenter Server 5.1 のオリジナル リリース版と同じものになります。すでに 5.1 GA バージョンをインストールしているか、5.1 GA バージョンへアップグレードしている場合は、ご利用いただけるのは 5.1.0b に移行するためのカスタム インストール オプションのみになります。このシナリオでは、vCenter Single Sign On、vCenter Inventory Service、vCenter Server の順にアップグレードします。

アーキテクチャの変更

vCenter Server 5.1 リリースには、重大なアーキテクチャの変更が含まれています。vCenter Server 5.1 の新規インストールまたは製品の旧バージョンから vCenter Server 5.1 へのアップグレードを試行する前に、これらの変更内容を理解しておく必要があります。vCenter Server 5.1 プラットフォームは、4 つの別個のサービスで構成されます。それらは次のとおりです。

- vCenter Single Sign On (SSO)
- vCenter Inventory Service
- vCenter Server
- vSphere Web Client

Copyright © 2012 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品は、米国および国際的な著作権法および知的財産法によって保護されています。VMware の製品は、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> のリストに表示されている 1 つまたは複数の特許の対象です。VMware は、VMware, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。ここに記載されているその他の名称およびマークは各社の商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

アップグレードの前提条件

vCenter Server 5.1 へのアップグレードを行う前に、現在使用している環境が vCenter Server 5.1 に適しているか、次の前提条件を確認した上で判断することになります。

Active Directory (AD) ドメイン設定を確認

- vCenter SSO は、AD との通信に標準 LDAP プロトコルを使用します。SSO がデプロイされているマシンには、デフォルトの読み取り専用 LDAP 権限（ドメイン メンバのデフォルト）がある必要があります。
- [Windows セッションの認証情報を使用する] チェックボックスを使用して、成功したログインのアイデンティティ ソースを追加するときは、ドメイン エイリアスを入力する必要があります。これは、vSphere Client と vSphere Web Client の両方に該当します。
- AD に関する前提条件の詳細については、ナレッジ ベース (KB) の記事を参照してください。
 - [vCenter Server 5.1 へのアップグレードのベスト プラクティス \(KB2021193\)](#)
 - [vCenter Server 5.1 のインストールのベスト プラクティス \(KB2021202\)](#)
 - [vCenter Server 5.1 の必須ポート \(KB2031843\)](#)

vCenter Server および Inventory Service の証明書が有効であることを確認

- 現在の環境に期限切れの証明書が存在しているとセキュリティ リスクの要因になります。vCenter SSO は証明書の有効性を確認します。期限切れ証明書を確認して更新する方法の詳細については、[KB 2035413](#) で参照できます。
- Microsoft Windows のデプロイ環境では、保有する証明書が証明書のキー長の最小要件を満たしていることを確認します。VMware の [KB 2037082](#) およびマイクロソフト セキュリティ アドバイザリ の [KB 2661254](#) を参照してください。

データベース構成

- 現状のデータベース ユーザーおよびパスワード品質ポリシーについて理解します。
- SQL 認証が **混合モード** に設定されていることを確認します。
- TCP/IP は MS SQL Server に対して有効になっている必要があります。

SSO のインストール タイプとして、基本、HA、複数サイトのいずれかを採用

現在の環境にどのインストールのタイプが適しているか判断する上で役立つ詳細な情報が、次のサイトで参照可能です。

- [vCenter Single Sign On を複数サイトのデプロイ環境にインストールする \(KB2034074\)](#)
- [vCenter Single Sign On を High Availability 用に構成する \(KB2033588\)](#)
- 基本 SSO インストールの場合は、『vSphere のインストールとセットアップ ガイド』 (<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html>) を参照してください。

VC 管理者の所在情報の把握

- 将来的に、SSO はユーザー認証をすべて管理する単一点となります。

- vCenter Server ではユーザーの管理が行われなくなるため、すべての関連ユーザー、特に管理者の情報を把握していることが非常に重要になります。
- (vCenter Server とは別のマシン上の) SSO サーバのデプロイ方法に応じて、ローカル OS ユーザーが新しい環境に移行されない可能性があります。この問題が発生した場合、新規の管理者ユーザー (可能であればローカル SSO ユーザー) を作成する必要があります。管理者が AD ユーザーの場合、SSO が AD ドメインを検出可能であるならば、それらのユーザーは SSO に移行されます。

より詳しい情報については、『vSphere 5.1 のインストールとセットアップ ガイド』 および 『vSphere 5.1 アップグレード ガイド』
(<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html>) を参照してください。

アップグレード方式

インストールやアップグレードを行うには、段階的なアプローチを使用します。このアプローチにより、アップグレードがよりスムーズに行えるようになり、何か問題が発生した場合には以前の安定していた状態に戻すことが可能になります。VMware では vCenter Server プラットフォームのインストールとアップグレードについて、シンプル インストールとカスタム インストールという 2 つのモードを用意しています。

1. ご使用の vCenter Server データベースをバックアップします。vCenter Server を仮想マシンで実行している場合、vCenter Server 仮想マシンのスナップショットを作成します。
2. 可能な場合は常に、簡易インストーラとは対照的な、各サービスの個別インストーラを使用します。まず SSO をインストールし、次に vSphere Web Client のアップグレードまたはインストールを行います。
3. vSphere Web Client に SSO 管理者としてログインします (admin@system-domain, <パスワード>)。
4. 管理者のすべての AD ドメインを見ることができていることを確認します。表示されない AD ドメインがある場合は、[構成] タブを使用して、[KB 2035934](#) の指示どおりにそれらの AD ドメインを追加します。
5. AD ユーザーの 1 名を SSO 管理者として割り当てます。ログアウトして、新規 SSO 管理者ユーザーを使用して再ログインします。正常に接続可能であれば、SSO は正しく構成されています。
6. 次の点に留意して、vCenter Server をアップグレードします。
 - vCenter Server のアップグレードよりも先に Inventory Service をアップグレードします。
 - ベスト プラクティスとして、ローカル OS ユーザーを使用しないようにします。
 - 構成済みの AD ドメインは、vCenter Server のアップグレード中、到達可能な状態でなくてはなりません。詳細については、[KB2035758](#) を参照してください。
7. vCenter Server のアップグレード中、管理者を次のように処理します。
 - vCenter Server のアップグレード中、インストーラによって検出できないユーザーに対しては管理者権限が削除されてしまう、という通知がされる場合があります。これは、ローカル OS ユーザーが SSO のインストール時に移行されなかった場合において、予期される現象です。
 - ローカル OS ユーザーが管理者のみである状況では、vCenter Server 管理者特権が割り当てられるユーザーまたはグループを提示するよう求めるプロンプトがインストーラによって表示されます。vCenter Server が認識可能な、有効なユーザーまたはグループを提示します。ここでは、vCenter Server 上で管理者権限が付与されたユーザーまたはグループのみが対象になります。

このシングルトン ユーザーまたはグループからの任意のユーザーを使用して、vCenter Server に接続します。vCenter Server へのログイン後、他のユーザーに管理者アクセスを提供できるようになります。

- セットアップ中、子ドメインからの管理者を使用しないようにします。

シンプル インストレーション方法を使用する場合、以前の vCenter Server から vCenter Server 5.1 にユーザーと権限が引き継がれるのは、アップグレード プロセスで SSO および vCenter Server によってローカル OS ユーザーや AD ドメインが検出可能な場合のみです。インプレース アップグレードを実行し、vCenter Server、SSO、IS を同一マシン上にインストールしようとしている場合、既存のローカル OS ユーザーは複数のアップグレードにわたり維持されます。

リリース ノート

vCenter Server 5.1.0b にアップグレードする際は、次の点に注意します。これらの注意点に関しては、問題に遭遇した場合に適用できる回避策が存在しています。

Microsoft SQL Server における動的ポートのサポート

Microsoft SQL Server はデフォルトで動的ポートを使用します。SSO では SQL Server への接続に固定ポートが必要です。静的ポートで SQL ポートを構成する方法については、『[vSphere のインストールとセットアップ ガイド](#)』を参照してください。ご使用のデータセンター ポリシーによって動的ポートが要求される場合は、SSO の初回インストール時にポート番号を指定できます。SQL Server の再起動後にポート番号が変わる可能性がある場合は、[KB 2033516](#) を参照して SSO をリセットして新規ポートを使用する方法を確認してください。

MS SQL 上の SSO サービスの依存関係

ローカルの Microsoft SQL Server で SSO がインストールされると、サービスを特定の順番で起動しなくてはなりません。SSO は、SQL Server の起動後に起動する必要があります。SQL Server の起動前に SSO を起動してしまった場合は、SQL Server の起動後に SSO サーバを再起動します。

vSphere Web Client がアクセス不能と表示されるか、プラグイン モジュールが vSphere Web Client で表示されないことがある

vCenter Server Appliance を 5.1.0b にアップデートしても、アプライアンスによって再起動を求めるプロンプトが表示されたり、自動的に再起動されたりすることがありません。vCenter Server 上で見つかった vCenter Server プラグイン モジュールの新しいバージョンで vSphere Web Client が後で更新されると、vSphere Web Client がアクセス不能と表示されるか、新しいプラグインが vSphere Web Client で表示されない場合があります。vCenter Server Appliance または vSphere Web Client プラグインを更新したら、vCenter Server Appliance を再起動してプロセスを完了します。